



発行：風の松原に守られる人々の会 事務局：〒016-0805 秋田県能代市大手町3-38 成田憲太郎方 電話0185-52-6316

会設立からの歩み

今号には平成21年9月から22年3月までの活動を記録。見出し番号は創刊号からの通し番号です。

129 県有林低木除去作業

本会発足当初から続いている県有林での作業は、9月9日(水)9:30~11:30まで、港湾道路からロケットセンターに向かう道路の入口近くで行われた。当日は15名参加。県有林での間伐体験は本会発足当初から行われていたが、低木除去作業が最初に行われたのは平成15年9月17日。当時は「男鹿街道脇の灌木除



去作業」と記録されている。

(「会報松風006号」)

130 パネル展「近代風の松原の できるまで」(今年度8回実施)

前号で「秋田県水と緑の森づくり税」の助成を受けて完成した展示用12枚組パネルを紹介したが、そ



の展示が市役所第4庁舎内の市民ギャラリーを皮切りに開始された。左の写真

は市民ギャ

ラリーでの展示風景(展示期間：9月16日~28日)。

2回目以降の展示期間と展示場所。

- 9.29~10.7 米代西部森林管理署
- 10.10~10.11 「働く婦人の家まつり」(青少年ホーム)
- 10.17~10.18 「鰯渕地区祭」(鰯渕会館)
- 10.31~11.1 「東部公民館文化祭」(東部公民館)
- 11.7 「環境宣言サミット」(能代西高校)
- 1.6~1.13 能代市子ども館
- 1.21~1.31 能代エナジウムパーク

131 第3回ニセアカシア萌芽除去作業

第3回目は10月9日実施予定だったが、台風が秋田県を直撃する予報が出たため15日(木)に延期して行われた。9日に集合場所に来て、誰もいないので場所が変更されたのかと問い合わせた人もいたというが、当日は15名が参加した。



今回はいいの広場から大森稲荷神社脇→健康づくりのみちNo.3地点→No.11地点→No.4地点のウッドチップ歩道両側で実施。

No.4地点付近でアカシアの根を掘ってみると地表から5~10センチの浅いところに横に伸びた



太い根が広がっており、以前刈り取られた萌芽の跡があちこちに残っていた。

132 ニセアカシアの生態と効果的な除去方法についての講習会に参加

山本地域振興局森づくり推進課から参加要請があり、10月30日(金)に本会から5名参加した。

当日朝に会場近くの浅内地区で竜巻の発生があったが、森林技術センター主任研究員田村浩喜氏による研究成果の発表がおこなわれ、ニセアカシアの除去方法について貴重な助言を得ることができた。



平成21年度米代川流域水と緑のネットワーク実行委員会

平成21年10月30日



133 秋の「風の松原観察会」



昨年に引き続き秋の松原観察会を10月31日の土曜日に実施。9:30分いこいの広場に集合。大森稲荷神社手前左の小径に入り、赤い木の実などの名前を聞いたり、詳しい説明を聞いたりしながら、ジョギングコース35番地点にある休養広場を通り、いこいの広場に戻ってきた。参加者20名。昨年より1週間早く実施したが、観察できる草花の種類が例年よりも少なかった。

134 会員研修会開催

11月20日(金)13:30から能代市中央公民館視聴覚室で「風の松原の将来について」というタイトルで会員研修会を実施した。参加者は20名。講師は本会前会長梅田市美さん。梅田さんは今年度7回にわたって開かれている「風の松原保護検討協議会」の委員でもあるので、保護検討協議会で話し合われた内容や、佐賀県虹の松原の保全・再生に向けての動向や梅田さんの考えを話していた。



135 風の松原の復元と利用

12月17日～2月3日まで8回にわたって本会の顧問である元静岡大学教授伊藤忠夫氏の文章が北羽新報に掲載されました。タイトルは「風の松原の復元と利用<日本海岸林学会シンポジウムから>」。

伊藤氏は2月1日付けと2月3日付けの紙面で国・秋田県・能代市・能代市民の4者に対してそれぞれ提

言を書いている。

市民への提言は、「一ぼくらの松原の歌声が流れる歴史の森を残そう」という見出しで、「・・・風の松原に守られる人々の会は、最大規模の組織で多岐にわたる活動を行っているが、お上に追従する姿勢ではなく、松原再生の原動力としての自覚とビジョンのもとに、積極的に要望、提言し、多くの市民組織に頼りにされるようなリーダーシップを発揮してほしい。守られる会から守る会への脱皮である。会設立に関わった者の1人としての願いでもある。・・・」と書いている。本会では4月の22年度総会に向けて伊藤顧問の提言に対してどのように応えるか検討中なので、総会での活発なご意見を期待したい。

136 樹幹注入作業実施(写真は22年度総会表紙に)

3月1日9:30から本年度最後の事業「樹幹注入作業」がいこいの広場北側で行われた。今回は、本会の会員、米代西部森林管理署、山本地域振興局、白神森林組合等、約30名が参加して行われた。

使用した薬剤(グリーンガード・エイト)の費用は「秋田県水と緑の森づくり税」の補助金で実施した。

樹齢160年以上のクロマツ4本に対して樹幹注入した様子の写真は紙面の都合で「風の松原に守られる人々の会平成22年度総会」の表紙に掲載した。

137 会員から寄せられたご意見

<風の松原全体について>

- ①クロマツ松純林モデル地区を設ける
- ②風通しの良い明るい松林に
- ③クロマツの間伐をすすめ健全育成をはかる
- ④市民が里親となって残すべき松を決める

<ニセアカシア対策>

- ①海岸寄りの幼齢林をニセアカシアから守る
- ②方法は難しいが松原を長持ちさせる対策が必要

<マツクイムシ対策>

- ①継続する

<ウッドチップ歩道>

- ①草の根が道の中まで延びているので取り除く
- ②あづまや周辺の草刈りが必要
- ③日和山あづまや周辺の白神展望を良くしたい
- ④御旅所～下浜の古道を歩けるようにしたい

<火災・防火・消火対策>

- ①防火線2号が防火帯の役目を果たしていない
- ②住宅と接している区域への対策
- ③ウッドチップ歩道等の防火対策は?

<その他>

- ①一定の面積を借りて樹木調査・松葉さらい等を何年か続けて実施する
- ②どの区域がどういう状態か実態調査を実施する